

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ホップステップ新城校		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 16日		～ 2026年 3月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 3月 20日		～ 2026年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性に応じた関わりと主体性を引き出す支援の実施	子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた関わりを大切に し、無理なく活動に参加できるよう配慮している。また、子 どもの興味関心を引き出しながら主体的に取り組める環境を整 え、成功体験を積み重ねることを意識した支援を行っている。	支援の中で有効であった関わり方や環境設定について記録・ 共有を進めるとともに、子どもの発達段階に応じた支援の質 の向上を図り、より主体性を引き出せる支援へと発展させて いく。
2	日常的な情報共有を基盤とした保護者との信頼関係の構築	日々の活動の様子や子どもの変化について丁寧に保護者へ伝え ることを意識し、安心感を持って利用していただけるよう努め ている。また、送迎時や連絡手段を活用し、継続的なコミュニ ケーションを図っている。	子どもの成長や課題について、より具体的かつ分かりやすく 伝える工夫を行うとともに、定期的な面談や情報共有の機会 を充実させ、家庭と連携した支援の質を高めていく。
3	安全面に配慮した環境づくりと安定した支援提供体制	安全に配慮した環境設定や見守り体制を整え、事故防止を意識 した声かけやスタッフ配置を行っている。また、安心して過ご せるよう基本的な運営体制の整備を行っている。	緊急時対応の確認や訓練の機会を継続的に設けるとともに、 マニュアルの見直しと周知を徹底し、安全面に対する意識の さらなる向上を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の質の均一化に向けた情報共有および体制整備の不足	スタッフ間での情報共有にばらつきがあり、支援内容や関わり 方に差が生じることがある。また、支援方法が個々の経験や判 断に依存している側面があることが要因と考えられる。	定期的なミーティングや記録の活用により情報共有を強化 し、支援内容の可視化を図る。また、支援方法の標準化・マ ニュアル化を進めることで、組織として統一された支援の提 供につなげていく。
2	支援内容や取り組みに関する保護者への説明機会の不足	日々の様子の共有は行っているものの、支援の意図や目的、事 業所としての取り組みについて十分に伝えきれていないことが 要因として考えられる。また、緊急時対応等の周知も不十分な 点がある。	支援の意図や成果を具体的に伝える仕組みを整え、定期的な 面談や情報発信の機会を充実させる。また、マニュアルや体 制についても分かりやすく説明することで、保護者の理解促 進につなげていく。
3	支援の効果や成長の見える化に関する課題	日々の支援の中で子どもの成長や変化は見られているものの、 それらを客観的に整理し、分かりやすい形で可視化する取り組 みが十分ではないことが要因として考えられる。また、記録や 評価の方法が統一されていないことも影響している。	支援の記録方法や評価基準を整理し、子どもの成長や変化を 客観的に把握できる仕組みを構築する。また、保護者にも分 かりやすい形で成長を共有できるよう工夫し、支援の成果が 伝わる取り組みを強化していく。さらに、スタッフ間で評価 視点を統一し、支援の質向上につなげていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	ホップステップ新城校
------	------------

公表日 2026年3月16日

利用児童数 2026年3月16日

回収数 18

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16	2	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	2	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	4	1	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15	3	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16	2	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	2	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	2	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17	1	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	7	5	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16	2	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16	2	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	3	0	0		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	18	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	0	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	16	2	0	0		
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	3	1	0			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12	5	1	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	4	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	3	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	3	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	1	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ホップステップ新城校				公表日	2026年3月20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	スタッフの人数によって変わる部分もあるが、事前に立ち位置を話し合っておき、全体に目が行き届くようにしている。	余剰人員を抱えても良いのではないかな。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3	欠勤などによりスタッフが足りなくなった時には他店舗にヘルプ要請をしている。	余剰人員を抱えても良いのではないかな。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	スタッフ間で日々話し合い、危険要素のあるところは都度対策を練っている。	上がりかまちや、事業所の柱部分などはクッション材を取り付ける必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	環境整備を通して日頃から細かい部分まで清掃している。	いらぬものも見られるため、使うもの使わぬものの分別を行うことでスペースはまだ広げられる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	相談室や支援室の隅などでマットを使用して囲いを作ることで落ち着くスペースを作っている。	カーテンを取り付けるなどして周囲の状況を遮断する環境を作るのも検討	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	日々の業務の中に話し合いの時間を設けておりPDCAを回している。	課題が多く優先順位を付けられていない面も見られるのが課題。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	アンケート結果はスタッフ間で共有しておりどうするかまでの話し合いを行うことができている。	定期的な実施はできているが質問内容を都度変えても良いのではないかな。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	面談を通してヒヤリングしており、業務改善に繋げている。	すぐに行動することができおらず、改善までに時間をかけてしまっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	外部連携や外部講師を通して意見を貰いスタッフ間で共有している。	外部講師を招く頻度を増やすことでより客観的な評価を貰うべきかと思う。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	研修はカレンダーを通して事前に設定されており定期的な実施を行うことができている。	企業文化を学ぶ機会が多いので加えて児童対応の研修を増やしても良いのではないかな。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	モニタリング、カンファレンスを通して児童対応について皆で話し合う場を設けている。	明確に実施する日を決めてもれなく行うことが必要	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	モニタリング、カンファレンスを通して児童対応について皆で話し合う場を設けている。	明確に実施する日を決めてもれなく行うことが必要	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	モニタリング、カンファレンスを通して児童対応について皆で話し合う場を設けている。	明確に実施する日を決めてもれなく行うことが必要	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	パートスタッフを含め情報共有して支援のずれがないようにしている。	より共有しやすいよう、シフトの調整などしてなるべく全スタッフが揃っている時に話し合いの場を設ける。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	Hugシステムを用いて児童の記録を行っており、全スタッフが確認できるようにしている。	記載する内容や言葉使いなどは統一したほうがより見やすくなるのではないかな。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	保護者様との面談の中でヒヤリングシートを用いることで聞き漏れがないように徹底している。	児発管や管理者以外もヒヤリングシートの内容を把握しておくことが必要。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	支援時間の前に話し合う場を設けている。	明確な基準を社内全体で詰めても良いかもしれない。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	日々同じことをしないよう、話し合っている。	機械も用いてよりバラエティー性に富んだ内容にする。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	スタッフ間で共有して、個別対応が必要な時には対応してもらい、他スタッフでカバーしあうやり取りを行っている。	時にはプログラム内容を変更して対応にあたる必要もあるのではないか。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	支援時間の前に話し合う場を設けている。	時に意見を言えないスタッフもいるため、対面だけでなく伝えられる機会を設けるのも良いか。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	必ず、夕礼の時間を設けてその際に話し合っている。	中だるみしないよう、どういった話を共有するのか、時間は何分かを明確に決めて行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	スタッフ間で記録を書く際にこんなことがあったと話し合う中でインシデントがあった際には次どうするかまで決めている。	支援中に記録を書くのはあまり望ましくないため、写真を撮るなどして工夫が必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	モニタリング、カンファレンスを通して児童対応について皆で話し合う場を設けている。	ずるずる行わないよう、明確に時間を設定して実施する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1	主にイベントを通して実施している。	偏りがないようにイベント内容も考えて満遍なく行えるようにする。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	何でもルールで縛るのではなく、児童にどうしたいかを確認する時間を設けている	児童間で話し合っても収集が付かないことはやはりあるためスタッフが傍に着く。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	1	基本的に児発管が出席しており、その中で管理者も可能な限り同席できるようにしている。	シフトの調整
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	更新面談などを通して保護者様に伝えて、日程調整や連携を行えるようにしている。	シフトの調整
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	児童のお迎えの際や、トラブルがあったときには都度連絡できるようにしているためこまめな情報共有をしている。	具体的にどういった場面になったら連絡するかを決めて全員の認識を統一する必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	児童発達支援のスタッフと連携して、情報共有を行っている。	児童発達支援から来た子たちではない場合、情報連携できていないこともあるため、保育園や幼稚園に連絡を取ることが必要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	保護者様を通してなどして情報を共有している。	明確なフォーマットを作成する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	外部講師を招いて機会を設けている。	頻度が少ないことが課題
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	営業活動の際などに直接事業所の紹介や子供たちと触れ合う機会を設けている。	ボランティア活動などを実施して交流の場を設けることが課題
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	児発管や管理者などが出席できるようにしている。	決められたスタッフだけでなく、他スタッフもいけるようにすること。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	申し送り時にスタッフより保護者様に状況を伝えている。	保護者会の頻度を増やし、より全体に伝えられる機会を設ける
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	保護者会の中で事業所で行っている支援内容や考えを伝えて一つの支援の糧になるようにしている。	保護者会の頻度を増やし、より全体に伝えられる機会を設ける
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	見学及び契約時に詳細に伝えている。	都度内容をブラッシュアップしていく必要がある。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	モニタリング、カンファレンスを通して児童対応について皆で話し合う場を設けている。	時に児童の希望が聞くことができていないときもあるため、保護者様を通して確認することも必要
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0			
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	0		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	1		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0		